

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

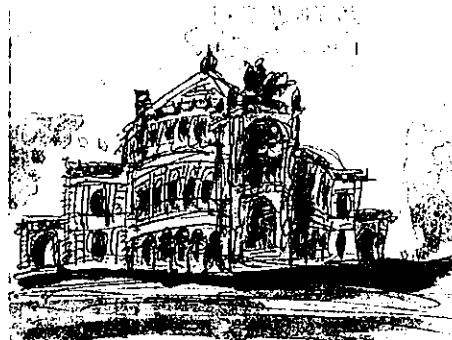
5期—9号



2003.10.15

CONTENTS♣

- はじめに／前野まさる 01
President's Message / Masaru MAENO
- 追悼／清水真一 02
Condolence / Shinichi SHIMIZU
- 2003年次 第2回拡大理事会報告(7/20)／日高健一郎 02
Reports on the 2nd Meeting of the Executive Board, 2003
Kenichiro HIDAHA
- 京都半鐘山の視察研究会／前野まさる 05
On-site Workshop in Hanshou-yama, Kyoto
Masaru MAENO
- UNESCO 無形遺産条約予備草案と無形遺産の概念について／河野俊行 06
UNESCO Convention on Intangible Heritage / Toshiyuki KONO
- イラク文化財保護国際会議／岡田保良 07
International Conference for Protecting and Rehabilitating of
Cultural Heritage in Iraq
Yasuyoshi OKADA
- US/ICOMOS 委員長へのインタビュー／福島綾子 09
An Interview with the President of US/ICOMOS
Ayako FUKUSHIMA
- お知らせ／山田幸正 12
Announcement / Yukimasa YAMADA
- 日誌／事務局 14
Diary



イラスト／オーバーゼンバー 前野まさる (以下すべて)

はじめに
前野まさる

今年は何とも何十年来の冷夏と長雨で、発掘現場の皆さんはさぞかし大変だっただろうとお察しいたします。そうした中、松本修自さんの訃報が届き、言葉が失ってしまいました。

実は昨年11月のICOMOSマドリッド総会にご一緒することになっていて、とても楽しみにしていたのです。ところが、体が疲れるとかで中止され、その後どうされているかな、と思っていた矢先でしたから、驚きました。在りし日の松本修自さんを偲び、ご冥福をお祈りいたします。

今年は、古代文明発祥の地の一つ、イラクでアメリカの侵攻作戦が起き、作戦終了後も博物館や美術館が略奪にあい、貴重な歴史的遺産が多く失われ、悲惨な年でした。日本もイラクの復興に協力し、そのための国際会議を8月に文部科学省主催で行われ、日本イコモスも人材、学識等で協力することを申し入れました。ご関係の方々は何かとお忙しいこととは思いますが、宜しく願いいたします。

日本イコモスとブルガリアイコモスとの共同事業プロヴディフ旧市街保存事業も石井昭顧問第5小委員会主査のご尽力で軌道に乗りました。

10月下旬にはいよいよジンバブエで、第14回ICOMOS総会が開催されます。総会の会場が南アフリカの遠方ですので、ご参加される方々はくれぐれもお疲れの出ませんよう。

私の手順の悪さで、またもインフォメーション誌の発行がおくれて申し訳ありませんでした。

2003年次 第2回理事会(拡大理事会)報告

追悼

松本修自さんを偲んで

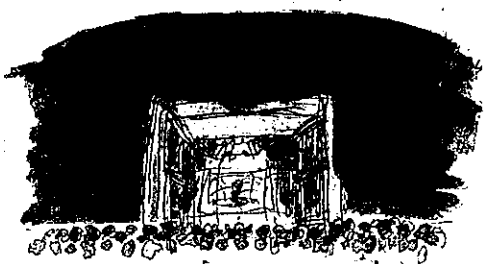
清水真一

本会理事を務めていただいた松本修自さん(享年53才)が2003年7月2日に膵臓癌のため逝去されました。

松本さんは1975年に奈良文化財研究所に入所以来、古代の宮殿・寺院遺跡の発掘調査と建築遺構の復原的研究に尽力されるとともに、各地の町並みや近世社寺建築の調査研究に幅広く活動されました。特に、山田寺金堂の復原模型の製作や飛鳥資料館図録「小建築の世界」「山田寺の伽藍と建築」の刊行などに精力的に取り組まれました。

1993年に東京文化財研究所に移られてからは遺跡・建造物の保存修復の理念と実践をテーマとされて、国際文化財保存修復協力センターにおいて特に欧州との協力事業を推進されました。2002年に再び奈良文化財研究所に席を移され、ますますの御活躍が期待されていた矢先のことでした。

優しい人柄と軽妙洒落な語り口の中に専門分野にとどまらない文化人としての関心の広さを漂わせていた松本さん。心より御冥福をお祈りいたします。



2003年次第2回理事会(拡大理事会)が去る7月20日(日)9時から12時まで、京都キャンパス・プラザにおいて開催された。出席者は委員長:前野まさる、顧問:伊藤延男、理事:杉尾伸太郎、日高健一郎、町田章、宗田好史、本部副会長:西村幸夫の7名で、報告事項・審議事項は以下の通りであった。

報告事項

1) 2003年次第1回拡大理事会報告について

インフォメーション誌第5期8号の発行が遅れているため、前回拡大理事会の議事内容が前野委員より口頭で報告され、これを確認した。

2) 国際専門委員会「歴史的庭園/文化的景観」委員会の動向について

来る10月25日ドイツのベルリンとバートマスカウ(ポーランドの国境に近い温泉地)で標記委員会が開催することが決定した。現地における世界遺産または候補地である歴史的庭園や文化的景観について問題点の検討や復元プロジェクトの手法等を議論・検討し、あわせてフィレンツェ憲章等今後の当委員会にかかわる諸問題について討議される予定である。なお、日本の委員としては杉尾伸太郎理事が参加することになっている。

以上の通り、杉尾伸太郎理事より報告された。

3) 国際専門委員会「木」委員会役員交代について

標記専門委員会の委員である伊藤顧問より以下のような報告があった。

現委員長であるミッシェルモア氏は、来る10月のジンバブエ総会において辞任したいとの意向を持っている。ジンバブエで生まれ育ったこともあり、“故郷に錦を飾って”引退したい意向とも聞く。すでに昨年秋ロシアでの標記委員会にお



いて次期委員長の候補として伊藤が立候補してもよい旨、現委員長に表明した。その折、委員長と事務局は一体であることが望ましいので、事務局も日本に置きたいとも伝えた（事務局長に渡辺保弘氏を内定）。この件について、本田智子氏を通じて常時Eメールで現委員長ミッシェルモア氏と連絡をとっている。委員長や事務局長に立候補するための手続きについては、まだ不明であるが、今までのところ、現委員長はこの件を肯定的に考えているようであり、また現事務局長ポーター氏（カナダ）も肯定的であると、間接的ながら、聞いている。現在までの状況は以上のとおりである。

4) イラク文化財保護に関する要望書について

去る5月1日、前野委員長と岡田理事が、外務省と文化庁に出向き、外務大臣、文部科学大臣、文化庁長官宛にイラク文化財保護に関する要望書を提出したことが前野委員長より報告された。なお、本要望書はインフォメーション誌第5期8号に掲載されている。

5) (社)日本コントラクトブリッジ連盟からの寄付金について

前回の理事会（4/12）の承認を得て、社団法人日本コントラクトブリッジ連盟の五十周年記念事業としての寄付金に応募申請していた。当該連盟理事会より日本イコモス国内委員会に対して金100万円を寄付する旨の内示があり、さる7月2日に寄付金を受領した。以上の通り、杉尾理事より報告された。

6) インフォメーション誌第5期8号の発行について

当初、本理事会開催前に発行・発送する予定で進めていたインフォメーション誌第5期8号は、編集作業の遅れにより、現在校正が完了した段階であり、月末には発行できる見通しであることが、前野委員長より報告され、あわせて校正刷りが回覧された。

7) 7月5日のイコモス本部理事会について

イコモス本部副委員長である西村幸夫氏から、ジンバブエ

総会の準備状況について、次のような報告があった。

ヨーロッパ側はジンバブエを非民主的國家ではないかという懸念を持ち、イギリス、オランダは公的に総会不参加を表明した。これに対してデニス・ブナル事務局長は安全であると報告をした。また、選挙問題で、郵送選挙と現地投票とをミックスする案が検討されたが、これには規約改正の問題があり、改めて原案を作成することになった。今回のジンバブエでの総会において論議することは、参加者数などの点から不可能で、次回の北京で開催される予定の総会で論議し決定することになるだろう。

8) 京奈和自動車道路建設の問題について

上野邦一理事（当日欠席）より、平城京を守る会のメンバー16人がさる6月30日の第27回世界遺産委員会にオブザーバー参加したことが書面により報告された。カウンターレポート（反論書）をユネスコ世界遺産センター所長バンダリン氏とユネスコ日本政府代表松浦氏に手渡されたことが、提出された7月13日付奈良民報によって伝えられた。

9) アフガニスタンの文化財問題について

町田章理事より、以下の通り報告された。アフガニスタン駐在研究員について、東文研現地事務所では現在複数機関が関係している調査事業を一元化する構想を持っている。近々発掘調査、地下検査の提案をする。これに関し平成16年度に人員の要求をする。JAICAもこうした文化財調査に予算を付けてもらいたい。

これについて宗田好史委員から、発掘要員は地方の文化財行政がかかえている専門家が余っているので流用できないか、との感想が述べられた。

審議事項

1) 新規入会者および退会者の承認 (資料回覧)

(1) 個人会員

現 職	推薦者
細田亜津子 長崎国際大学人間社会学部助教授 前田耕作 アフガニスタン文化研究所代表	斉藤英俊・稲葉信子 山内和也・斉藤英俊

(2) 維持会員

	推薦者
株式会社トリアド工房 西武建設株式会社	前野まさる・矢野和之 前野まさる・矢野和之

これまで上記2名の個人会員、2社の維持会員 (国内) の入会申請があり、審議の結果、これを承認した。

ほかに3名の個人会員入会申請があったが、推薦書不備につき次回再審議とした。

(3) 退会者

松本修自 7月2日 ご逝去

2) 会費長期滞納者の処遇について

1992年～2003年 12年分 1名

1994年～2003年 10年分 1名

上記の2名については退会したもとして手続きをとることとなった。

1998年～2003年 6年分 1名

上記の1名は支払いの意思が確認されたため保留とした。

2001年～2003年 3年分 5名

2002年～2003年 2年分 7名

上記計12名については再度、督促することとなった。

(後日、上記10年分滞納者と連絡がつき、支払いの意思が確認されたため、退会の措置は保留されている。)

3) ジンバブエ・イコモス総会について

(1) 出席予定者:

伊藤延男、稲葉信子、佐々波秀彦、杉尾邦江、西村幸夫、本田智子、前野まさる、渡辺保弘

(2) おもな日程:

10月28日 諮問委員会 (役員選挙)

10月29日～31日 総会 (名誉会員の推薦、ガンゾーラ賞発表)

なお、次回総会は中国・北京で、2005年10月下旬頃開催 (テーマ: Cultural Landscape) の予定である。

4) アジア地域会議 (Regional Committee)

標記の会議がきたる2004年7月8～9日、中国・上海で開催される予定であることが前野委員長より報告され、今後日本イコモス国内委員会としても、それに対応した準備を進めていくこととなった。

5) 世界遺産会議について

(1) 北朝鮮高句麗古墳の世界遺産登録の件

さる7月4日にパリで開催された世界遺産会議において、北朝鮮による標記遺跡の世界遺産申請に対抗して、中国は中国にも同種古墳群が存在し、広域的科学比較調査が行われていないとの意見書を提出した。結果、中国の主張により、来年の世界遺産会議までに調査報告を行うこととなった。ただし、ジョイント申請はせず、来年、中国・北朝鮮がそれぞれ独自に申請する予定である。

(2) アメリカのイエローストーンの危機遺産リスト指定解除申請について

科学的根拠がないとの批判があり、来年の同会議までにアメリカの同遺跡保護計画書が提出されることになった。

(3) 来年の世界遺産会議

次回2004年の世界遺産会議は、中国・蘇州において、6月27日～7月8日の予定で開催される。

6) 国際専門委員会 (ISC) 委員の拡大理事会参加について

各国際専門委員会で voting member あるいは associate member となっている委員が国内委員会理事を兼ねていない



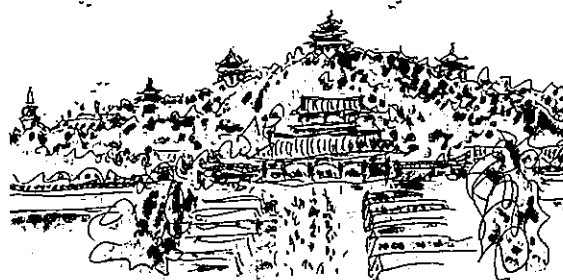
ものが、現在、7委員会があるが、日本イコモス国内委員会の活動上、そうした委員の方々にも拡大理事会に加わり、議論・協議することが望ましい。また、日本イコモス国内委員会の会員の方々に出来るだけ国際専門委員会に連繋をもらうために、国際専門委員会ごとに会員名簿を整理し、これによって、それぞれの国際専門委員会の活性化をはかり、海外における国際専門委員会関連の情報を多く発信できるようにしたい。以上のような提案が前野委員長からなされた。

この提案を受け審議した結果、各国際専門委員会の委員が拡大理事会に参加すること、また各会員がそれぞれ興味・関心をもつ国際専門委員会に帰属するようにすることを承認した。

7) インフォメーション誌第5期9号の準備状況

Intangible Heritageに関する研究会やイラクの文化財保護問題に関する国際会議報告などを中心に内容を編成し、9月末までには発行できるよう準備を進めたいとの前野委員長の意向が示され、これを了承した。

(記録:日高健一郎)



京都半鐘山開発問題にかかわる視察研究会

～視察から雑感～

前野まさる

理事会終了後の7月20日午後より半鐘山に向かい、現地で「半鐘山と北白川を守る会」メンバーと合流し、アパート屋上より守る会の状況説明を聞く。その後、銀閣寺境内の富岡鉄斎の間において意見交換を行った。

〈印象〉

現状の開発はどう見ても危険な造成。地山がゆるそうな感じ。半鐘山に隣接する住宅の防風林がなくなり、既存住宅の環境が損なわれる。銀閣寺からの景観では半鐘山がなくなると、風景の読点なくなる感じ。

〈問題点〉

平成10年地元住民が京都市に開発差し止めの要求、市は業者に住民意思の伝達指導と議会の意思尊重を伝えることを約束。一方で平成12年開発申請受理。現行法では可。行政開発審査会住民申請棄却。

京都市が世界遺産申請に伴う国内法と世界遺産条約のバッファゾーンと古都保存法、景観条例の調整不備に起因する。また、世界遺産登録を受けている京都の歴史的遺産の保全について、京都に住む行政、事業者、市民の責任の重さの認識の在り方にも起因する。

〈その他〉

日本イコモス国内委員会として、京都が世界遺産として登録されている以上、国内法、京都市関係条例と世界遺産条約との調整を早急に済ませ、こうした問題を再発させないことを望みたい。現地をでき得る限り景観復元をはかるよう業者の指導を望みたい。

UNESCO 無形遺産条約予備草案と 無形遺産の概念について

九州大学法学部教授 河野俊行

《沿革》

無形遺産の問題は、1973年にUNESCOでボリビアが民俗芸術文化遺産の保護のための議定書を万国著作権条約に追加することについて検討を求めた提起に端を発する。1982年にはモデル法案を関係国共同で作成したが、立法国が0であったために、日の目を見なかった。1989年にUNESCOは記録保存を主たる関心とする勧告が採決された。

1998年に世界傑作宣言がスタートし、第1回目には能楽が取り上げられた。土着の芸能を持つアジア、アフリカのこの制度に対する評価は高かった。

《無形遺産の保護の必要性の可否と方法》

ヨーロッパは、無形遺産は放置すべきという意見が主流を占め、保護するとしても、条約のように法的な枠組みを作るのではなく、宣言、勧告のような柔軟性のある方法で取り決めようとの考えであった。これに、アフリカ諸国は反発していた。ヨーロッパの無形遺産に対する認識は以下に要約される。

- ・ヨーロッパの文化遺産の前提は、不動産であること（アフリカにおける口伝、伝承の文化はこの概念にあてはまらない）。
- ・無形の文化遺産は西欧には存在しないとの認識。
- ・無形文化遺産を保護することで得られる経済的メリットがない。
- ・ヨーロッパにおける古典芸能はエンターテインメントとしての扱いでよい。

《無形遺産条約予備草案について》

2002年3月と6月の2回、パリで非公式専門家会議を開催し、ほぼ世界遺産条約に則るたたき台をまとめ、9月の政府間専門家会合の第1セッションに提案、日本とアフリカは賛成したが、欧米、南米の猛反発を受ける。

本年2月1週間かけて再度審議したが、各国は文言にこだわり採択されたのは3ヶ条のみであった。次いで4、6月と法律家主体の第3セッションを持ち、予備草案の採択までこ

ぎつけた。この背景の一つには、フランスが「文化多様性条約」の制定をねらい、無形遺産条約予備草案の賛成にまわり、ヨーロッパ側が割れたことによる。

《無形遺産の定義を巡って》

people's learned process:2002年2月のトリノの会議で、採用したもの。

practice representation, oral expression:2002年6月の文化人類学者の会議によるもの。スコープが不明確として批判される。

knowledge:日本の文化財保護法では知識は対象にならない。議長採決で一挙に採択。

language:アフリカ諸国にとって、口承文学などは重要。日本は言葉自体は文化財保護法の対象とならない。反対国も多く妥協案として、as a vehicle of the intangible cultural heritage の言葉を付加する。

民俗的儀式などには女性蔑視のものがあり、justice and equity の語を入れ差別的なものを排除したいとする意図があったが、そうすると、世界の無形遺産の9割が欠落すると反対意見があり、justice and equity を外し採択。

《リストについて》

Representative List:当初のmaster pieceの表現は差別主義として反発があり変更。

危機遺産リスト:世界の無形遺産は危機に貧しているのが大前提なので反発は少ない。

世界傑作宣言:傑作宣言リストは条約発効後は無形遺産条約のリストに統合され、傑作宣言は無効となる。

リストとレジストリー:用語の問題であるが、当初反対の多かったリスト案が支持される。

アルゼンチンはリストではなく、プログラム案を提案、結局リスト・プログラム併合案となる。

基金:発展途上国は拠出の減免措置があるため、義務的拠出賛成。欧州諸国は無形遺産について関心が薄く、経済的利益も少なく義務的拠出反対。妥協案を採択する。

事務局の位置づけ:UNESCO本部無形遺産課が所管する



ことを明確にする。

《日本における無形文化遺産の保護について》

1975年の文化財保護法改正で、重要無形民俗文化財指定制度を新設。同法の下では土着のものと洗練文化の2種類があり、欧米の無形遺産の概念とは異なる。日本では歌舞伎は無形遺産たりうるが、欧州ではオペラはエンターテインメントとして認識されている。衰亡の危機にある無形遺産を保護しようとする欧州の方向性とは異なる。

《現行法上の問題》

批准に伴い、現行法の改正が必要になるとは思われない。国内における「指定制度」とのバランスを取って行くかが今後の課題である。

2003年秋の採択を目指す。



イラク文化財保護国際会議

岡田保良

米英軍の占領下、いまだイラク国内の安定化に見通しがつかず、保護体制が空洞化したまま暴徒や乱掘の危機に瀕しているイラクの文化遺産をめぐる「第3回ユネスコ・イラク文化財保護国際会議」が、去る8月1日、お台場の国際交流館会議場において開催された。

世界中を驚愕させたイラク博物館略奪の報道直後、ユネスコの呼びかけにより、早くも4月中旬に2回の専門家会議がパリとロンドンで開催されている。当然ながら議論は、博物館から不法に持ち去られた動産文化財の国外流出をいかに食い止めるかに集中した。

その後やはりユネスコが主導し、今回の会議までの間、5月と6、7月の2度にわたって現地に調査ミッションが送られた。最初のミッションの顛末については、その一員だった松本健氏が本誌前号に寄稿した報告のとおり、博物館の実情調査を中心にバグダード市内に限られた調査だった。2度目の一行はイラクの南北に主要な遺跡を訪ね、違法な盗掘によって博物館に劣らず荒廃の進む遺跡の惨憺たる映像を私たちにもたらした。

本会議の正式名称の中に「第3回」とあるのは4月時の後継会議という意味だが、趣旨も参加者も一貫しているわけではない。博物館の復旧や動産文化財流出の問題とともに、イラク各地の遺跡の実情を踏まえたはじめての専門家会議ということになる。案内状には会議の主催者として、文化庁、ユネスコ、日本ユネスコ国内委員会が併記され、外務省は「協力」の枠内にとどまっていた。

海外から招聘された「出席者」には「国際的専門家」と「イラク人専門家」、さらに「国際機関」という区分のもと、シカゴ大学のM.ギブソン教授（考古）、大英博物館のJ.カーチス氏（考古）、イラク・イタリア共同研究所のR.バラベッティ氏（建築）、イコモスのM.ベツェット会長ほか、ユネスコ本部から推荐されたに違いない16名の錚々たる顔ぶれが並ぶ。加えて「日本人専門家」として10名が、海外招聘者とともに円卓を囲んだ。筆者の同僚、松本健、大沼克彦両氏を除けば、みな国の機関に籍を置く面々だったのは、スポ

ンサーたるわが国文化庁苦心の結果と思われる。そしてつねに議長席にいて会議の進行を仕切っていたのがユネスコのM.ブシュナキ氏であり、円卓後方にはパリから引き連れてきたアラビア語通訳はじめ数名の事務局員が控えていた。

* * *

これだけの面々が一堂に会する会議だったが、日程は午前10時開会、午後6時閉会という1日限りで設定され、午前中に1つ、午後に2つのセッションが用意された。

開会のセレモニーはユネスコ親善大使でかつ国内委員会委員長でもある平山郁夫氏の開会辞に始まり、松浦晃一郎ユネスコ事務局長による挨拶兼経過報告が続いた。いずれも単に儀礼的なものではなく、平山氏からは会議が提言すべき枠組みが提示され、松浦氏のスピーチは、今日に至る数ヶ月間のユネスコによる努力を説明するとともに本会議による勧告への期待を表明するものであった。

最初のセッションは「基調講演」として括られ、四半世紀の間イラクの考古庁（かつては考古総局）の長官を務めて2年前に後進に道を譲ったムアイヤッド・ダメルジ氏、ギブソン教授、カーチス氏、そして現イラク考古庁長官のジャベル氏と、イラクの文化財事情を熟知した面々が順に登壇して、イラク博物館の遅滞とした回復状況と、全土に及んで危機的状況にある遺跡の報告が披露された。ギブソン氏もカーチス氏も、この間ユネスコとは別に現地を頻りに訪ねて活動をつづけており、かなり大袈裟に報道されてきた博物館略奪について、一部で噂されていた博物館員の関与をきっぱりと否定したスピーチが印象的であった。

なお、この第1セッションの終わり近く、当初冒頭に挨拶が予定されていた遠山文部科学大臣が現われ、ジャベル氏のスピーチに割り込む形で登壇した。

昼食休憩をはさんで第2セッションからは、会場配置を講演会形式から円卓形式に模様替えして行われた。まずはテーマを「イラク博物館の短期長期の行動計画」とし、4月11日以降の略奪を目の辺りにしたイラク博物館長ナワラ女史と、第2回のユネスコ・ミッションに同行した東京文化財研究所の青木繁夫氏が基調報告を行った。ナワラ女史によると、展示品はともかく、収蔵室にあった粘土板文書類は無事だったとのことである。青木氏は博物館内にあった収蔵品修復施設の損壊状況を紹介し、その復旧の急務を訴えた。引き続き

き、河合隼雄文化庁長官以下、円卓を囲む参加者はほぼ全員が順に短いコメントを披瀝したのち、博物館活動の再開／セキュリティ／収蔵室の環境／象牙遺物の修復／長期計画、といったセッションテーマに即した諸点について勧告案がとりまとめられた。ここでは、博物館の復興、修復業務の復旧について、ユネスコを中心に日本、イタリア等が協議調整を図る必要があることが浮彫りとなった。

最後のセッションは「イラクの文化遺産を保護する方策」をテーマとし、ブシュナキ、ジャベル、ダメルジ各氏から、主としてバグダード市内の歴史的建築や文化関係施設の損壊略奪の状況報告があり、つづいて松本氏は2回目のユネスコ・ミッションの折に記録したVTRを用い、各地遺跡の惨憺たる実状を紹介した。続く各氏のコメントの中で、アメリカ政府を代表する立場にいたB.ガーディナー女史から、すでにネット上でも公表されているが、国務省筋200万ドル、民間基金から100万ドルの支援が表明された。最後に提示された勧告案には、国際的調整会議／人材育成／美術音楽等無形文化遺産の保護などが盛り込まれた。この間、関係諸国、諸機関の調整を何度も強調したブシュナキ氏の姿が目についた。

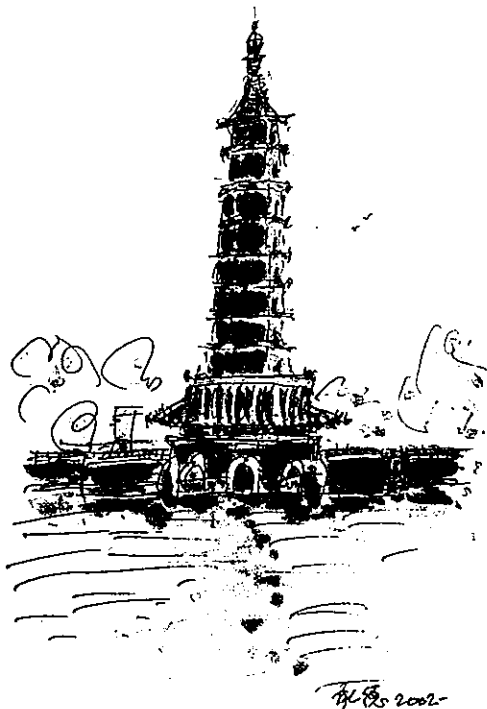
* * *

会議を振り返ってみて、ブシュナキ氏が縦横に活躍していた印象ばかりが残る国際会議だったが、文化庁が海外の文化財問題にこれほど正面からコミットするのは、おそらくはじめてのことであった。外務省がやればよいというものでもないが、外務省がイラクの文化財略奪の事態を受けていち早く公表した100万ドルというユネスコ信託基金の活用については、文化交流部参事官の川田司氏が専門家として言及したのみで、会議中ほとんど検討される機会がなかった。これだけの有識者が揃っている場で、何の提案も要請も得られなかったのは残念なことというほかない。

勧告案の骨格はおそらくパリで練られていたにちがいがなく、この場での新たな議論を期待するのは所詮過大な注文であった。それでも、今年11月中に開催が公約された国際的な調整会議が予定通り実現されるとすれば、この会議の最大の成果といえるだろう。もっとも、その前にわが国外務、文科両省の調整が果たせるのかどうか、懸念するのは筆者だけであろうか。



忌憚のないところ、「もし同じメンバーをパリに集めて開催したとしたら、いったいどれほどの経費が節約され、どれだけの機器類をバグダードに供与できたことだろう」と、会議の東京開催を訝る声も一部にはあった。少なくとも今回の日本側主催者には、会議の議事や結末を方向付ける能力が備わっていたとはとても思えなかった。疑問の向きに応えるには、イラクの文化環境の復興に向けて、今後わが国に潜在する人材をいかに動員し、いかなる実績を上げるかにかかっている。もちろん、イラク国民の生命と生活の安穏を後回しにできないことはいうまでもない。



US/ICOMOS 委員長

Gustavo Araoz 氏へのインタビュー

福島綾子

私は2002年9月よりアメリカ合衆国フィラデルフィアにあるペンシルバニア大学にてHistoric Preservation Program修士課程に在籍し、研究をしている。2年目の秋学期はStudioという必修の授業がある。フィラデルフィア市内にある特定の区域の保存計画(Conservation Plan)を作成するという内容のこの授業を毎年担当するのは、US/ICOMOS 委員長のGustavo Araoz 氏である (Gustavo 氏以外にも2人の講師がいる)。彼の講義に参加している機会を利用し、US/ICOMOS に関するインタビューを行った。

福島 US/ICOMOS の会員構成はどのようになっていますか。

Araoz US/ICOMOS は3年前に新しい会員構成システムを導入しました。現在、US/ICOMOS の会員には以下のような種類があります。National Affiliates (一般会員) という会員は、US/ICOMOS の活動や保存活動に関心があり、サポーターである一般会員で、会費はUS\$75ですがNational Affiliates メンバーは、インターナショナル・イコモスの会員ではなく、パリのイコモス本部に登録はされません。それから、International Member があります。International Member のほとんどは「専門家」ですが、しかし、これは専門家に限っているわけではありません。アメリカには保存関係の団体が無数にあり、何が保存の「専門家」で何がそうではないかを定義するのはとても難しいからです。会費は\$125で、パリ本部からのニュースレターなどを受け取ることができます。そして、Library Member という会員があります。イコモス本部のニュースレターを受け取ることが出来、会費は\$125でInternational Member と同じベネフィットが得られます。Library Member とInternational Member の違いは、Library Member はInternational Member のような専門的な活動には通常参加しないということです。最後に、Institutional Member (団体会員) があります。特にこのInstitutional Membership 制度はUS イコモス独自のもので、とても優れていると自負しています。以前もInstitutional Member 制度はありましたが、会費

が高額な割には特別なベネフィットがなく、Institutional Memberは減る傾向にありました。そこでポリシーを変え、ひとつの機関がその機関に属する4名の個人を会員としてパリ本部にも登録し、4人分のイコモス会員証、ニューズレターを受け取ることができ、会費は4名で\$375という割安な価格に設定しました。個人で会員になるよりも、このInstitutional Memberで会員になるほうがずっと安くすむわけです。この新しい制度を初めて以来、Institutional Memberは増えつつあり、現在40ほどあります。そしてこれは160名の個人会員に相当することになります。パリ本部には、Institutionとしての登録ではなく、4名の個人会員として登録されています。また、Institutional Memberの機関に属するその他の人々、例えば大学ならばその学生は、USイコモス主催の会議の参加費が割引になるなどのベネフィットもあります。全体としてUS/ICOMOSの新しい会員制度はとてもうまくいっています。ちなみに、Affiliate NationalとInternational Memberの制度についてはAustralia/ICOMOSも同じような会員制度を採用しています。

福島 一般会員(National Affiliates)は何か活動をされているのでしょうか。

Araoz 一般会員はUS/ICOMOSの様々なNational Specialized Committeesに参加することができます。ちなみに、US/ICOMOSはInternational Scientific Committeeにはない独自の委員会を持っています。それは「Brick Masonry」で、Dr. Charola(同じくペンシルバニア大学Historic Preservation Programの講師)が代表を務めています。

福島 US/ICOMOSの主な活動は何でしょうか。

Araoz 一番重要な活動は、US/ICOMOSが毎春開催している国際シンポジウムです。これは、保存の分野ではアメリカで定期的に開催される唯一の国際的集まりという点でとても重要です。開催地は毎年代わり、前回はアナポリス、次回はルイジアナです。会議のために、世界各地に発表の呼びかけを出します。アメリカには大小の保存関係の団体が無数にあり、我々US/ICOMOSは常に他の多くの団体と競合関係にあるのです。ですから私たちは他の団体との差別化を図らなければなりません。私たちと他の機関との大きな差異は、私たちの活動は原則的に全て国際的な要素を持っているという

ことです。またUS/ICOMOSの理事会は、国内の主要な保存関係の団体の代表から成り立っています。他の国内の保存団体代表をUS/ICOMOSの理事会に常に参加してもらうことで、USイコモスはそれら国内的保存団体内のための国際的スポークスマンとしての役目も果たし、それら団体がいかに国際的な活動に関われるかをコーディネートしているのです。

福島 US/ICOMOSのもうひとつの重要な活動であるサマー・インターンについて伺います。

Araoz サマー・インターン・プログラムは、アメリカの学生の世界各国への派遣と外国人のアメリカでのインターンの両方を行っています。国内外に関わらず基本的に受け入れ機関がインターンの必要経費、例えばワシントンDCのUSイコモスでのオリエンテーション参加費、生活費などを負担することになっています。それだけでは足りないのが、財団からのGrantにも大きく頼っています。しかし、国によってはインターンという制度や習慣がないため、インターンのための予算が計上されないということがよくあります。このような場合、プライベートの財団から特定の二国間での相互理解のためのグラントをもらえることがあるのでこれを利用します。アメリカと東ヨーロッパ、フィリピンなどとの間であり、それをインターンの必要経費に使うことができます。言語がインターンの問題になることもあります。国外へ行くアメリカ人インターンのほとんどは英語しかできません。ラテン・アメリカ諸国でアメリカ人学生のインターンする場合には、ホスト国からの要請でスペイン語能力が義務付けられています。アメリカに来る外国人学生には、英語能力を義務付けています。日本人学生のインターンは数多く受け入れています。アメリカ人学生をUSイコモスを經由して日本へ送ったことはまだありません。

福島 US/ICOMOSの運営資金はどのようになっていますか。

Araoz 私たちの年間運営予算はおおよそUS\$500,000です。その半分の\$250,000はサマー・インターン・プログラムに使われています。この財源は様々な財団からの提供、インターン受け入れ機関からの出資で成り立っています。別の半分の用途は、事務所運営費、常勤職員の人件費、国際シンポジウム開催費、ニューズレター発行費、その他刊行物の費用



などです。これらの財源は何かというと、会費収入がおよそ \$50,000、National Park Service（米国内務省国立公園局）からの Grant が \$90,000 で一般運営費として使っています。USイコモスはNPSと様々な活動を協力して行う協定を交わしているのでこのGrantが供与されます。また、米国内務省からのGrantもあります。この資金はもともとアメリカがユネスコから脱退した時に、ユネスコには加盟しない代わりに別の形でアメリカが文化遺産保存の国際協力に参加することを保障するために計上されたもので、それをUSイコモスがGrantとして受け取っているのです。しかし、アメリカは今年10月1日にユネスコに再加盟するので、このGrantをUSイコモスが続けて受け取れるかどうかは分かりません。その他の財源として寄付があります。個人寄付やクレスト・ファンデーションなどの財団からの寄付があります。USイコモスはNPOなので、私たちが受け取る寄付は免税です。USイコモスの各理事（21名）は毎年少なくとも\$500の個人寄付をする義務があります。例えば私の場合、ペンシルバニア大学での講師料を全てUSイコモスに寄付しています。国際シンポジウムからの収益も\$10,000から\$15,000くらいあります。私たちは、会費以上のサービスを会員に提供していますが、それは損益になっているということではなく、会員組織としての私たちの使命であると考えています。

福島 US/ICOMOSの職員構成はどのようになっていますか。

Araoz US/ICOMOSは他のイコモス国内委員会と違い、US/ICOMOS常勤職員がいます。私自身と副代表の2名です。時々、アルバイトを雇うこともあります。特別なプロジェクトを行う場合など、例えばワシントンDCのジョージ・ワシントン大学のHistoric Preservationの学生にアルバイトをしてもらったことがあります。

福島 日本イコモスはUSイコモスと違い、今の時点ではNPOではありません。NPO法が国によって違うのですね。

Araoz 違いますね。例えばアメリカの場合、NPOとして登録するのに最低限必要な資本金額やスタッフなどの要求はありません。フランスの場合、NPOとして登録するにはUS\$500,000の資本金が必要です。アメリカでは合法的にひ

とつの組織を完全にふたつに分割し平行させ、ひとつは免税ではない専門家の組織、もうひとつはNPOである専門家の組織のための資金調達（Fund Raise）専門の組織とし、そこで得た資金を専門家の組織に寄付するという方法が一般的です。アメリカの民主主義が公共の利益を追求するNPOを活発にしていると言えます。免税のNPOが増えることにより、アメリカ政府の歳入は減ります。しかし、何が公共の利益であり、どういった活動をするかは政府が全てを決めるのではなく、市民自身が決めるべきという思想がアメリカの民主主義です。NPOが多ければ多いほど、市民が寄付する選択肢が増え、そして公共の利益に市民が参加する機会や選択肢も増えるということになります。

福島 アメリカ合衆国はユネスコにまもなく再加盟しますね。分担金はどのようになっているのでしょうか。

Araoz 2003年10月1日ですね。アメリカの経済規模から言って、アメリカの分担金はユネスコの通常予算の3分の1あまりを占めることになります。ですが、ユネスコの予算全体が増えると言うことではないのです。これまで、日本やフランスなどの国があまりにも多くの分担金を負担してきました。アメリカが再加盟することによって、日本やフランスなどの負担が減り、その分をアメリカが負担するということになっています。

福島 US/ICOMOSの今後の目標は何ですか。

Araoz ICOMOSと基本的に同じです。国際協力の推進、アメリカの保存の分野での国際協力を強化し、そして他国と経験を共有するとともに、アメリカも世界から学ぶことが必要です。USイコモスは両方通行の道であり、橋だといえます。私たちは世界の全ての国に対して同じように関心があり、そして世界の全ての国に同等に参加、協力していくことが重要なのです。アメリカという国そのものが多民族から出来上がっていることを考えれば、そうあるべきです。また、US/ICOMOSの会員は常に拡大を目指しています。2000名の会員規模は必要だと考えています。

お知らせ

第7回US/ICOMOS 国際シンポジウム

2003年7月15日 福島綾子氏より

日時：2004年3月18日～20日

場所：Natchitoches, Louisiana, US

The 7th US/ICOMOS International Symposium will be held in Natchitoches, Louisiana, with the co-sponsorship of the National Park Service National Center for Preservation Technology and Training (NCPTT) and the Cane River National Heritage Area. The overarching theme will be conservation and management of cultural landscapes, cultural itineraries and heritage areas.

第8回歴史的都市国際会議

2003年7月25日 ICOMOS本部事務局より

日程：2003年10月6日～8日

場所：モントリオール（カナダ・ケベック州）

申込み：8月1日以降の申込みは400カナダドル

The Conference will be of interest to elected municipal officials in member cities of the League of Historical Cities, as well as heritage managers, researchers and anyone interested in heritage matters.

The League of Historical Cities, chaired by Kyoto Mayor Mr. Yorikane Masumoto, brings together representatives of 61 cities in 49 countries. It holds a conference every two years, hosted by one of the member cities. The conference program covers subjects related to urban development and conserving and protecting built heritage.

ROUND TABLES: This year there will be three round tables, on the theme of Historical Cities and Built Heritage, moderated by deputy mayors of Montreal.

Website : <http://www.vieux.montreal.qc.ca/2003/index.htm>

第8回DOCOMOMO国際会議 (2004年ニューヨーク)

2003年8月8日 ICOMOS本部事務局および
DOCOMOMO US 会長 Theo Prudon 氏より

DOCOMOMO Internationalはパリに本部をおき、現在47カ国で構成されております。DOCOMOMO USの主催により、下記の通り、第8回国際会議を開催いたします。

テーマ：Import-Export: Postwar Modernism in an
Expanding World, 1945-1975

日時：2004年9月29日～10月2日

場所：コロンビア大学116th and Broadway, New
York

問合せ：www.docomomo-us.or

また www.docomomo.com

DOCOMOMO US: P.O. Box 230977 New
York, NY 10023 USA

THE ASIAN ACADEMY FOR HERITAGE MANAGEMENT:

Networking to conserve Asia's cultural richness

2003年8月18日 ユネスコバンコク事務所より

アジア太平洋地域における文化財管理の向上のための職業的訓練を行なう機関として先頃設立された、UNESCO-ICCROM Asian Academy for Heritage Managementは、2003年11月22日から12月6日の間、中国・マカオで下記のようなField Schoolを開きます。

From 22 November to 6 December 2003 the first annual Field School of the Asian Academy organized by the Architectural Conservation Programme of the University of Hong Kong in cooperation with the Macao Institute for Tourism Studies and the Macao Cultural Institute will take place in Macao (China). The Field School will offer staff and advanced students from member institutions of the Asian Academy the opportunity to study heritage conservation in real-life situations with the guidance of leading experts in this field. Case



studies and field trips to heritage sites in Macao and Hong Kong will be part of the programme. Applications for the Macao Field School should reach the Asian Academy by 15 September 2003.

より詳しい情報は、以下のところにお問合せください；

Patricia Alberth (Coordinator)

Asian Academy for Heritage Management

Office of the UNESCO Regional Advisor for Culture in Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand

Phone:+66 (0) 2 391 0577 ext. 514/Fax:+66 (0) 2 391 0866

E-mail:asian-academy@unescoykk.org

Web.:http://www.unescoykk.org/culture/asian-academy

Australia ICOMOS E-Mail News No. 77

2003年8月1日 オーストラリア ICOMOS 事務局より

1) Australia ICOMOS 2003 Annual Conference 21-22 November 2003, Sydney

Planning for the conference is progressing well. We know that many people are keenly awaiting further information about the conference we plan to circulate a brochure and registration information via email very soon!

2) Latest Edition of Historic Environment

Members and subscribers have recently received the latest edition of the Australia ICOMOS journal Historic Environment, titled Islands of Vanishment.

This issue contains a small selection of papers drawn from the memorable conference of the same name held at the Port Arthur Historic Site, Tasmania last year.

The articles featured are:

- David Lowenthal: Tragic traces on the Rhodian shore
- Peter Read: Purifying the dead place
- Denis Byrne: Segregated landscapes: the heritage of racial segregation in New South Wales
- Rodney Harrison: The archaeology of lost places: ruin, memory and the return to nothing
- Greg Lehman: Reconciling ruin

- Bill Logan: Hoa Lo: a Vietnamese approach
- Spencer Leineweber: Exiles in paradise
- Memories and monuments in Berlin: a Cold War narrative
- Grace Karskens: Raising the dead: attitudes to European human remains in the Sydney region c.1840-2000
- Lisa Murray: Remembered/forgotten? Cemetery landscapes in the nineteenth and twentieth centuries
- Joan Domicelj: Ebbs and flows: when to conserve the scars of pain? When to let them heal?

Plus Book Reviews

Subscription information for Historic Environment is available on the Australia ICOMOS website membership page: www.icomos.org/australia.

3) Conference Notice: Botanic Gardens of Australia and New Zealand Inaugural Conference 2003

Botanic Gardens: Engaging Their Communities
24-28 October 2003, Geelong Victoria

The congress aims to examine the contemporary issues facing Botanic Gardens and Arboreta in Australasia today in order to maintain their relevance to their communities and importance in the 21st century. The four streams of the conference are:

- Heritage Planning & Protection
- Conservation & Science
- Community Networking
- Horticulture & Arboriculture

Further information : www.anbg.gov.au/chabg

4) Government report to review the status of UK Heritage Sites

According to The Art Newspaper, the UK Government has announced a review of the protection of heritage including buildings, conservation areas, World Heritage and historic sites. A White Paper is to be produced next year. You can view this article at

<http://www.theartnewspaper.com/news/article.asp?idart=11252>

(山田幸正)

日誌 事務局

(2003年6月30日～2003年9月10日)



2003年

- 6/30 US/ICOMOSより「NEWSLETTER number 1 first quarter of 2003」を受領
台湾文化庁 陳長官との会食（前野委員長、杉尾氏が出席）
Australia ICOMOSのバーグ氏と会食（前野委員長、西村氏、杉尾氏、矢野事務局担当理事が出席）
- 7/1 東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター主催による「第14回国際文化財保存修復研究会」
＜イラク文化財遺産の保存の地平線＞開催（於東京文化財研究所会議室）
- 7/2 前野委員長、杉尾氏と共に社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟を訪問し、藤田会長に寄付金を頂いたお礼の挨拶をする。
松本修自氏ご逝去（告別式 7/5 日本イコモス国内委員会より香典、お花、委員長より弔電）
- 7/4 (社)日本コントラクトブリッジ連盟より日本イコモス国内委員会に寄付金 100万円の入金有り
- 7/11 ユネスコより 機関紙 2003. 7. vol. 1086を受領
- 7/20 2003年次 第2回拡大理事会開催 午前9時～12時（於：京都キャンパス・プラザ）
午後より半鐘山問題視察研究会（現地で「半鐘山と北白川を守る会」メンバーと合流、状況説明を聞き、後、銀閣寺富岡鉄斎の間で討議）
- 7/25 WELLFARE ASSOCIATIONより「News Letter TURATH」を受領
- 7/28 東京文化財研究所、日本イコモス国内委員会共催による「無形文化財の保護に関するユネスコ条約研究会」を開催（於：東京文化財研究所会議室）講師は九州大学教授 河野俊行氏
- 7/30 ICOMOC MEXICANOより「News Letter NO.13 (Junio 2003)」を受領
- 8/1 文化庁主催「イラク支援のための国際会議」にイコモス会長のMicheal Petzet氏が来日出席
ドイツ ICOMOSより書籍2冊受領（Die Restaurierung der Restaurierung、Sports Sites Culture）
- 8/2 イコモス会長 Micheal Pezet 氏を囲んでの夕食会（前野委員長、西村氏、伊藤氏、稲葉氏、市原氏が出席）
- 8/4 US / ICOMOSより「News Letter」受領 Number2 / second qqrter of 2003
全国町並みゼミより「かしはら・今井大会（9/19～9/21）」の案内受領
- 8/8 [JAPAN ICOMOS INFORMATION] 5期8号を発行 維持会員を含む全会員及び関係団体に順次送付
併せて会員の動静調査及び国際専門分科委員会の登録をお願いする葉書も送付
- 8/15 第5小委員会を開催（於：文化財保存計画協会会議室）
- 8/18 World Heritage Liaison OfficerのGiora Solar氏より evaluation mission の件についての手紙を受領
- 8/20 ICCROMより「NEWS LETTER JUNE 2003 29」を受領
- 8/25 奈良文化財研究所職員組合より「京奈和自動車道の平城宮跡及びその周辺の地下通過計画の撤回を重ねて求める要望書」を受領
- 8/25-29 プロヴェディフ旧市街保存事業についてユネスコ、ブルガリア政府間でagreementに調印（石井氏が出席）
- 9/5 (社)日本ユネスコ協会連盟より「ユネスコ 2003 9. vol.1087」を受領
LANDESAMT FUR DENKMALPFLEGE HESSENより書籍“Historic Wooden Architecture In Japan”
を受領
第31回古代史サマーセミナー参加者一同より「奈良の文化財に悪影響を与える高速道路計画の再考を求め」決議書を受領
- 9/10 UNESCO World Heritage Centreより「THE WORLD HERITAGE news letter 40 June-July-August 2003」を受領

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Trustees	理事	稲葉 信子	Nobuko INABA
		上野 邦一	Kunikazu UENO
		岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
		杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		田原 幸夫	Yukio TAHARA
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		藤本 強	Tsuyoshi FUJIMOTO
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		町田 章	Akira MACHIDA
		宮川 朝一	Asaichi MIYAKAWA
		宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
		矢野 和之	Kazuyuki YANO
		山田 幸正	Yukimasa YAMADA
		吉田 綱市	Koichi YOSHIDA
Auditors	監事	石澤 良昭	Yoshiaki ISHIZAWA
		木原 啓吉	Keikichi KIHARA
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		羽生 修二	Shuji HANYU
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
		石井 昭	Akira ISHII

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVE TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Vice President	西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Management	小野 昭	Akira ONO
	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Structures	日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
Training	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工楽 善通	Yoshimichi KURAKU
Historic Gardens and Sites	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中 眞	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	村上 裕道	Yasumichi MURAKAMI
	伊藤 延男	Nobuo ITO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Structures	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Photogrammetry	西村 康	Yasushi NISHIMURA
Cultural Corridors	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA



JAPAN ICOMOS INFORMATION

Vol.5, No.9 15 OCTOBER 2003

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 山田幸正

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-9-6 アストウルビル3階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel&Fax .03-5728-1621 e-mail jpicomos@kb4.so-net.ne.jp

JAPAN-ICOMOS OFFICE

c/o Planning Institute for the Conservation of Cultural Properties

Asutouru Bldg.,1-9-6Ebisu-nishiShibuyakuTokyo150-0021,Japan

Tel&Fax .+81-3-5728-1621 e-mail jpicomos@kb4.so-net.ne.jp